



カウンターには吹出口あります。薪ストーブの暖気で足元を暖めようという試みです。



4



3



8



6

5

5/ アイランド型のオリジナルキッチン。  
6/ 将来を見据えフルオープンにできる。  
7/ 洗面器は陶器製の病院用流しを使用。  
8/ 壁には水に強いサワラの板を使用した。

外出時も、軒下の小窓を開けていけば空気が淀むこともなく、防犯上も安心です。

## 設備

サイクルファンを吹き抜けの上部と階段に設置し、この2台を同時に動かすことで風を屋内に回します。2F 寝室の3連窓からは、吹き抜けを通じ夜風が入ります。

## 間取り

雪見障子を採用することで、目隠しをしながら風を取り入れることができます。

## 建具



2



完成現場報告

# 風道のある家

### 土地の風を知る

この地域は、朝は西風、昼間は南風、夕方には北風...と、風の流れが変わります。Tさんのご家族は以前からの土地にお住まいになり、経験上ここにはどんな風が吹くのかご存知でした。ある夏の夜、Tさんはいつものように雨戸を閉めて寝ていたものの、余りに寝苦しいので東側の窓を少し開けてみたそうです。すると、北側から気持ちの良い風が部屋の中に入り込んで来たといいます。このような風を家の中へ取り込みたい。その思いから風の入り方をシュミレーションし、設計との打合せ段階では窓の位置や形に至るまでを決めていかれました。

### どうやって風を取り込むか

風道を作る為、部屋の間取りや建具設備という3つの事を考慮しました。  
①間取り：暖かい空気は上昇することから、家の東南に吹き抜けを設け、大きく開けられた1階リビングの掃きだし窓から2階へと風が流れていくようになっていきます。その吹き抜けには東面に採光用の「フィックス窓」と通風用の「縦滑り窓」を設けており、南面のベランダ側にも引違い窓を設けています。2階寝室も吹き抜けに接しており、3連窓を開けることによって、北側の窓から入ってきた夜の北風が寝室へと流れていきます。  
②建具：1階のキッチンと広間には南に2間(3.64m)の掃きだし窓があり、

4枚のガラス戸と4枚の雪見障子、大きな雨戸2枚が全て戸袋に収まってしまふように設計されています。雪見障子を採用することで、目隠ししながら風を取り入れることができます。また、雨戸は開閉式のルーバーになっており、戸締りをしてもルーバーの開け具合によって夜も風の調節が出来るようになっていきます。また1階には2部屋寝室があり、それぞれの雨戸もルーバー式です。今年の夏は、雨戸の戸締りをしながらも風を取り込むことができた為、快適な睡眠が得られたそうです。

③設備：サイクルファンを吹き抜けの上部と階段に設置し、同時に動かすことにより風を屋内に回すことを考えてTさんが計画されました。一台は空気を下げ、もう一台は空気を上げるように動かし、空気の流れを作ります。

お話を伺った当日も、窓から気持ちよい風が入ってきました。「家の中に風の道を作りたい」というTさんの一番の要望は、家族皆が過ごしやすい住環境にする為のものだったようです。フルオープンで使えるトイレや、玄関のベンチや肘掛など、所々にお母さん達に優しいプランを考えられたTさん夫妻。建築中も現場の私たちにに対し、優しい心遣いがありとご近所というところもありますので、これからも宜しく願っています。

(文)コロコロ 夏梅真澄